



支援室だより

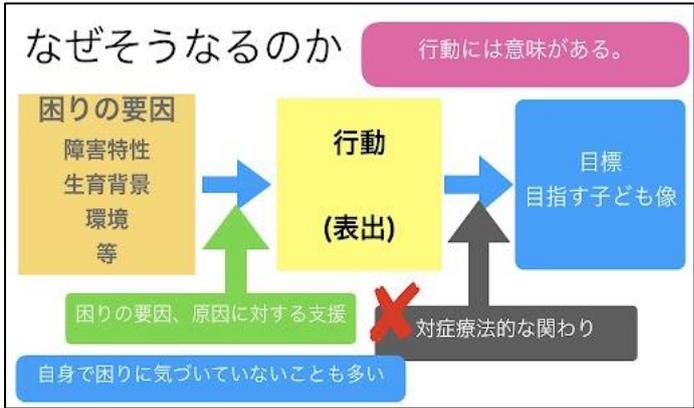
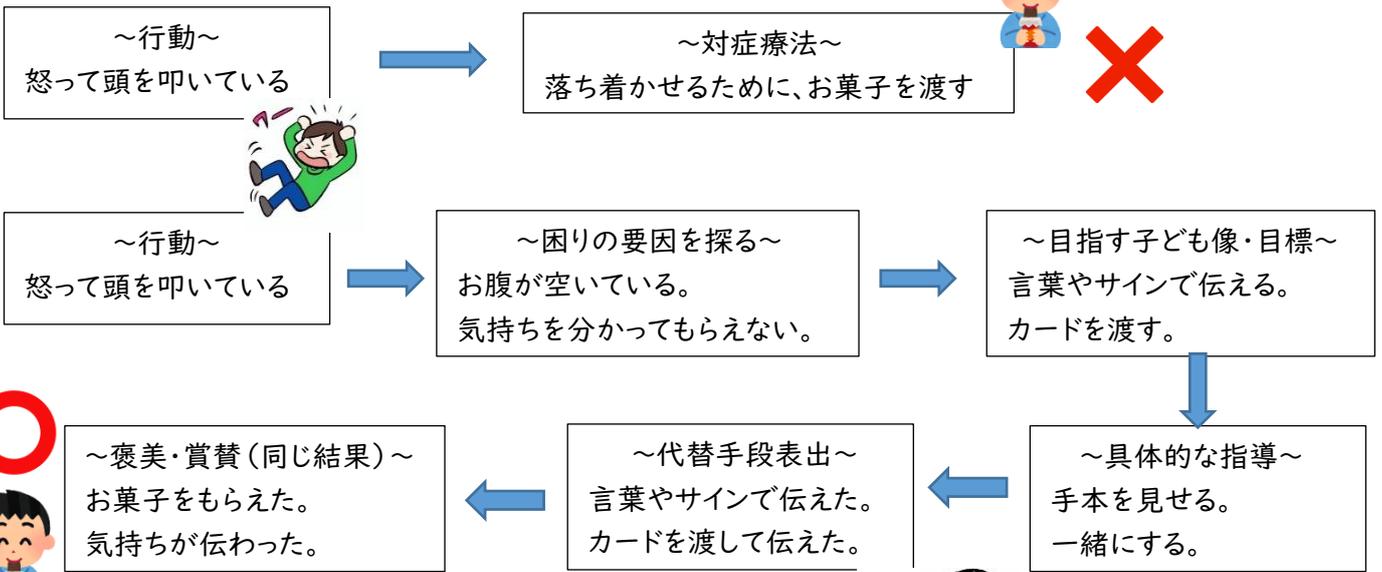
大阪府立思斉支援学校

第3号 令和6年9月30日

☆子どもの気になる行動に対して、どう対応するか☆

子どもの表面に出ている行動には、ほとんど意味があります。その原因、理由を探り、その意味を失わせない代替手段を教えることが大切です。対症療法的に関わってしまうと、誤学習につながりますので、ご注意ください。

例えば・・・



代替手段である「適応行動」をとることで、同じ結果が得られるという経験を繰り返すことが大切です。

～上記以外にも、子どもの対応に悩んだ時のワンポイント👉を挙げておきます～

- ・目標は高くしすぎない。明日や来週中にできる目標設定を。
- ・「～してはいけません」より「〇〇しましょう」の声かけを…
- ・絶対許されない行為を「叱る」時には、子どもの人格ではなく、行動を叱ること。そして、柔らかな口調で、指示は、CCQP「Calm(穏やかに)Close(近くで)Quietly(静かに)Positive(肯定的に)」で！
- ・場所を変えて話をする時には、年齢×1分の時間を守りましょう。(7歳なら7分)
- ・子どもは、自己表現が未熟。どうすればよいか、具体的に伝えましょう。
- ・適切な行動をしている子どもたちを十分に褒めましょう！ *梅花女子大学伊丹教授夏の研修より抜粋

